

New

病院の
理念

その人らしく「生きる」を支える

1. 人権を尊重し、心のかもった医療を実践します。
2. 地域との連携を図り、安全かつ専門的な医療を提供します。
3. 主体的に参画し、健全な病院運営に努めます。



作品名：ちょうちょ A2病棟 山田直美 様

CONTENTS

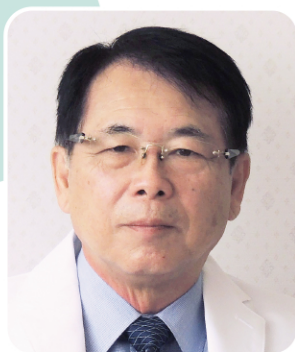
- 退任のご挨拶 松久 卓
- 院長就任のご挨拶 加藤 達雄
- トピックス 能登半島地震の医療班として活動しました
- 検査科だより モストグラフによる呼吸抵抗測定検査について
- 地域医療連携室だより 地域医療連携施設の紹介マラソン 59
まついファミリアクリニックの紹介
- トピックス 病院理念を見直しました
- 職員リレーノート

スタッフ募集中

看護師・介護有資格者・
看護助手



当センターへのお電話は、電話番号をよく見ておかけ間違いのないようお願いいたします。



退任のご挨拶

長良医療センター 名誉院長
松久 卓

私 事ですが、この3月末をもって院長職を退任させて頂くことになりました。令和2年7月に着任して、3年9ヶ月という短い間ではありましたが、院長職の任を何とか無事終えることが出来ますのも一重に皆様方の御援助があつてのことであり深く感謝申し上げます。

私が着任した頃は、新型コロナウイルス感染症が流行し始めた頃で、私の任期の約3年間は、新型コロナウイルス感染症対策で右往左往した時期でした。当院は新型コロナウイルス感染者を、まだ毒性も強くウイルスの性質もよくわからない初期のデルタ株の時期から積極的に受け入れて来ました。行政の要請に応じるかたちで、新型コロナウイルス感染入院患者を20人、30人、40人と増やしていき、とうとう1日48人の感染患者を受け入れた日も何日かありました。当時新型コロナウイルス感染者を診て（看て）くれていた病院のスタッフには本当に頭が下がる思いでいっぱいです。国立病院機構の職員は、その使命感と倫理感が高く、患者様のため、国民のために働いてくれてると強く感じました。また昨年5月の新型コロナウイルス感染症が5類に移行されるまでに、当院は1500人以上の新型コロナウイルス感染者を受け入れました。この数は、この地域では最も多い数であり、当院の存在意義を地域に示せたのではないかと自負しています。さらに新型コロナウイルスに対するワクチン接種でも当院は中心的な役割を果たしてきました。流行期には日常診療の忙しい中、月1-2回の地域住民に対する集団接種を続けてきたことも当院の大きな誇りであり、当時のスタッフの皆さんには感謝しかありません。

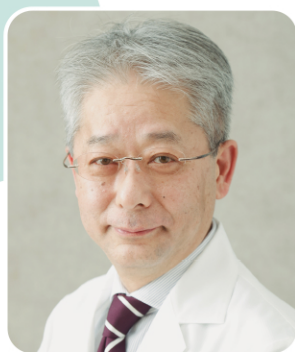
このような新型コロナ感染パンデミックの中、昨年1月に緩和ケア病棟「やすらぎ病棟」を開棟できたことは、私にとっても大きな喜びであり、当院にとって大きな前進でありました。スペースを広めにとったホテル仕様の病室は、

「人生の最後を家族とゆっくりと過ごせる」と、利用して頂いた患者様や家族から良い評価を得ております。私が着任したときに掲げました「地域住民から必要とされる高齢者にも寄り添った医療」に沿った新しい試みであり、今後の長良医療センターの柱となっていくものと考えております。

また療養環境の整備も力を入れました。当院への岐阜バスの増便、自動扉の設置、外来・病棟のWiFiの設置等、外来患者様や入院患者様が快適に療養して頂けるようにしました。また障害者病棟は、以前は携帯電話の電波の入りが悪く携帯電話が使えなかったのですが、docomoやauと交渉し、病棟内でも携帯電話が使えるように工事をしてもらいました。これにより新型コロナ感染パンデミックの間も、直接面会ができなくてもベッドサイドから家族とビデオ電話でお話ができるようになりました。

この4月から病院の理念を変更しました。新しい当院の理念は「その人らしく「生きる」を支える」です。これは、これまでの当院の理念「命を育み 未来を大切に」を発展させ、時代に即したものにしました。時代の変化とともに、個々の価値観も多様化し、「命」や「生き方」に対する考え方も変わってきています。単に最高の医療、最善の医療を提供することがその人にとって本当に幸せだったのかはわからなくなってきました。時には医療者の傲りにすぎないこともあります。私たちは、患者様の気持ちに耳を傾け、寄り添い、患者様が本当に望む医療を提供することに全力を注ぎたいと考えています。そしてその人のこれからの人生と一緒に支えていきたいと考えています。

この4月から病院の舵取りは、後任の加藤達雄先生にお任せすることになりました。新しい院長の下、「新しいぶどう酒は、新しい革袋に」のごとく長良医療センターに新しい風が吹き、今後益々発展することを願って止みません。



院長就任のご挨拶

長良医療センター 院長
加藤 達雄

令和6年4月1日に国立病院機構長良医療センター院長に就任いたしました。甚だ微力ではありますが、全力を尽くして長良医療センターの運営に精進いたす所存であります。

はじめに、自己紹介をさせていただきます。昭和62年に岐阜大学医学部を卒業、大学病院での研修後、昭和63年6月に当時の国立療養所岐阜病院（後に国立病院機構岐阜病院と改称）に赴任しました。その後1年3ヶ月間県立岐阜病院（現岐阜県総合医療センター）に赴任した時期を除き、国立療養所岐阜病院、国立病院機構岐阜病院にて、長く呼吸器診療を学びました。平成17年3月に岐阜病院と長良病院が長良医療センターの地で統合されたため、当センター呼吸器内科に異動となりました。肺癌、COPD、気管支喘息、呼吸器感染症、間質性肺炎など、呼吸器疾患の分野は多岐にわたりますが、新しい知識や技術を身に着け、幅広く呼吸器疾患の患者さんを受け入れて、地域の医療に貢献できるように努めてまいりました。その後、統括診療部長、副院長として院内感染対策、医療安全管理等の管理業務を担当してきました。また、岐阜県感染症対策専門家会議にも参加し、岐阜県の新型コロナ対策に関する政策決定のお手伝いをするなど、専門性を生かして地域の医療

行政にも関わる機会を頂いております。

さて、令和6年4月より、当院の病院理念が新しくなりました。今までの病院理念は、「生命を育み 未来を大切に」でしたが、周産期部門が当院から岐阜県総合医療センターに集約されたこと、緩和病棟（やすらぎ病棟）が開設されたことから、病院の理念を広く職員から意見を集め、見直しました。新理念は、「その人らしく『生きる』を支える」です。本人・家族の思いを尊重した医療を提供し、多職種でその人らしい人生を支えることが当センターの使命と考えています。

障がい者医療、肺がん、難治性呼吸器疾患、心不全、小児医療、緩和医療等の当センターが得意とする専門医療をさらに充実すること（専門医療の充実）、患者さんに、より安全で安心な医療を提供すること（安全で安心な医療）、職員間のコミュニケーションが良く、風通しのいいチームにより、気持ちに余裕をもって患者さんに接すること（職員の心理的安定性）により、新理念を実践できる長良医療センターを全職員で目指していきたいと思っております。

引き続き、地域の皆様、地域の医療関係者の皆様のご協力、ご指導を、宜しくお願い致します。

令和6年能登半島地震の医療班として活動しました

庶務班長

山内 悟



立病院機構東海北陸グループより災害医療支援の要請があり、当院から医師1名、看護師2名、薬剤師1名、事務1名の計5名が1月7日から11日までの5日間医療班として派遣されました。

派遣初日は金沢に宿泊し、翌日から輪島市内で活動を開始しましたが、輪島市内に辿り着くまでの道中は土砂崩れや悪天候等で道路が寸断されており、到着するのに通常の2倍以上の時間がかかりました。

輪島市役所に到着後、災害対策本部より避難所スクリーニングの指示を受け、医師1名と看護師1名、薬剤師1名と看護師1名の2班に分かれ、各避難所を回り、避難者数、ライフライン、衛生環境、有症状者の数等を調査しました。各避難所では厳しい環境での避難生活が続く中、発熱や胃腸炎等の体調不良を訴える方が多く、新型コロナウイルス感染症やインフルエンザ等の感染症の拡大を防ぐための衛生管理も喫緊の課題でした。また被災された方の中には、医療機関に受診できない高齢者の方が多く、常用薬が無くなって困っている声も多く聞かれました。しかし、



限られた時間で複数の避難所を回る必要があり、全ての患者のニーズに対応することが出来ませんでした。

なお、事務1名は輪島市役所内の災害対策本部内で医療活動に必要な連絡、調整、情報収集業務を行い、主に各避難所の新型コロナウイルス感染症等感染者数把握を行っていました。私たちが派遣された頃は地震発生から1週間しか経過しておらず、各避難所の衛生状況にバラつきがあり、一部の避難所では感染症が爆発的に増えていました。

国立病院機構の輪島市内での医療班活動は、2月18日まで続けられ、当院からも第2班が2月2日から6日まで派遣されました。

改めて、1月1日に発生した能登半島地震により被害を受けられた皆さまへ心よりお見舞い申し上げますと共に皆さまの安全と被災地の一日も早い復興を願っております。



モストグラフによる呼吸抵抗測定検査について

生理検査室

井上 真由香・中尾 楓



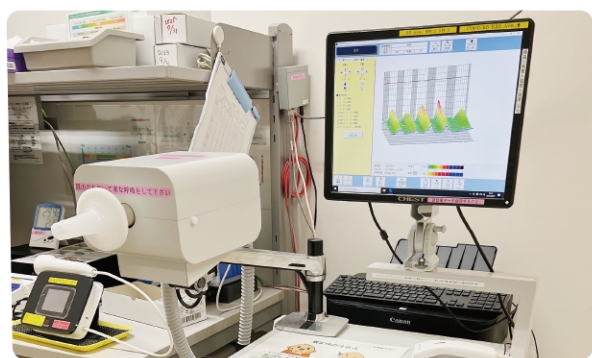
長

良医療センターの生理検査室では呼吸器疾患を診断するための検査として精密肺機能検査、呼気NO検査の他に、新たにモストグラフによる呼吸抵抗測定検査を実施しています。

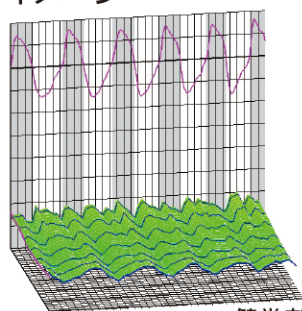
今回はモストグラフについて紹介いたします。

★モストグラフとは

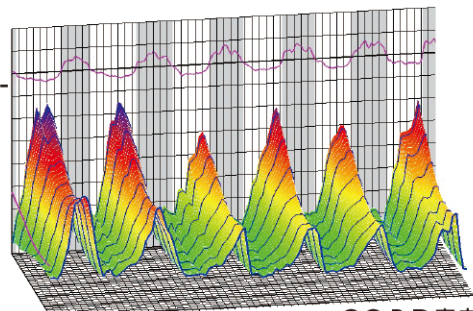
呼吸抵抗を測定する装置です。呼吸抵抗とは呼吸のしにくさを表しています。肺に繋がる空気の通り道（気道）が狭くなったり、肺の動きが悪くなったりすると空気が肺まで通りづらくなり呼吸抵抗が上がります。モストグラフではそのような呼吸のしにくさを3D画像として目で見るすることができます。



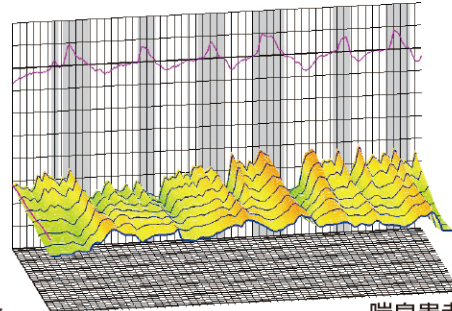
イメージ



健康者



COPD患者



喘息患者

★モストグラフの検査方法

椅子に座った状態でマウスピースを咥え、頬を抑えたまま普段通りの呼吸を2～3分するだけで簡単に計測することができます。そのため、モストグラフは呼吸が苦しく大きな呼吸をすることが難しい方でも比較的楽に検査をすることができます。

★結果からわかること

モストグラフは主に慢性閉塞性肺疾患（COPD）や喘息の診断および治療効果の確認に有効とされています。

結果の3D画像では山の高さが呼吸抵抗の大きさを表しており、健康な場合は呼吸抵抗が小さいため、3D画像の抵抗の山も小さいのが一目で見て分かります。それと比べるとCOPD、喘息では呼吸抵抗が大きくなるため、3D画像の山も大きくなります。

良医療センターでは呼吸器疾患の専門治療を行っております。最近息がしづらいつと感じる方・長引く咳や痰等の症状がある方は、一度当院呼吸器内科への受診をおすすめいたします。

まついファミリアクリニックの紹介

～地域医療連携施設の紹介マラソン⁵⁹～

院長

松井 順五

岐 阜市福光にある当院は、2020年まではまつい小児科小児外科として、地域の小児医療を中心に35年以上診療を行ってまいりましたが、2020年に息子を副院長に迎え、名前をまついファミリアクリニックと改め、小児のみならず、成人にもフォーカスを当て、個々のニーズに対応する全人的な医療を行うクリニックに生まれ変わりました。

もともと私は長良医療センターの前身の旧国立長良病院で小児外科をやっていた外科医でありましたので、開業してからも様々な患者様を旧長良病院及び長良医療センターに紹介させていただき、お世話になってまいりました。当院は小児のプライマリケアを中心とした小児診療引き続き継続しておりまして、コロナ禍にあっても発熱患者を断ることなく診療し、乳幼児のコロナ患者さんを長良医療センターの小児科の先生には受け入れていただいたと記憶しておりまして、それ以外にも小児科や小児外科の先生にはお世話になっており本当に感謝いたしております。それから、当院は小児外科を標榜しておりますので、外傷の診察や縫合やギプスなどの外科処置を中心に、鼠経ヘルニアや臍ヘルニア、停留睾丸、肛門疾患（痔核、痔ろう）、多指症や陰唇癒合などの一般的な諸疾患から、肝芽腫などの悪性腫瘍に至る様々な症例を診療しております。また、一般成人の生活習慣病など慢性疾患を中心とした内科診療と、捻挫や脱臼・骨折、切創や挫創、熱傷などの外傷の初療など



一般外科診療についても、広く行っており、さらには高齢化社会のニーズに応ずるべく、在宅診療にも注力しております。在宅の肺炎患者などでは夜間に診療をお願い申し上げるときもございましたので、長良医療センターの呼吸器内科の先生方にも本当に感謝いたしております。

今年の2月でリニューアルから4年が経ちました。新型コロナの中でのリニューアルで私も大病などにて体調が思わしくなくなかなか厳しい4年間を副院長とともに過ごしてまいりましたが、長良医療センターの先生方のおかげでまつい小児科・小児外科開業以来何とかここまでやって来ることができました。私が長年行ってきた小児診療についても、この4年で、もともと外科医の副院長へ十分伝授いたしましたので、これで引退するという趣旨ではないですが、老兵は死なず、ただ消え去るのみであり、これから先も、副院長が先頭に立って地域の小児からお年寄りまでの診療を頑張ってもらえると思いますので、引き続き当院をよろしくお願い申し上げます。

病院理念を見直しました

専門職 岸本 英祐

平成17年3月の創立以来長良医療センターの理念として親しまれておりました、「生命を育み、未来を大切に」を昨今の医療ニーズの変化による医療機能の見直し等を踏まえ、見直しを行いました。

新しい理念は、職員から公募を行い、応募のあった理念の中からワーキンググループ等で検討し、最終的に、

“その人らしく「生きる」を支える”

に決定いたしました。

この理念には、筋ジストロフィー、重症

心身障がい児（者）、高齢者、認知症患者、呼吸器内科・外科、循環器内科、脳神経外科、緩和ケア内科など当院が受け入れる全ての患者さんに本人の意思をくみ取り、限られた時間を大切に、その人の望む医療や療養調整など、その人らしく生きる支援につながる医療やケアを行うという意味が込められています。

当院は新しい理念のもと、引き続き地域の皆様に頼られる病院を目指して参ります。

職員リレーノート

～自由なメモ帳～

長良医療センターに配属され4年が過ぎました。今回、私が体験し活力を得ていることを書かせて頂きます。

私は中央病棟の成人患者さんにリハビリテーションを実施しております。自分より年長の方と関わることが多いです。自身がリハビリテーションを提供し指導するのですが、皆さんさまざまな人生観や感性をもっており、人として色々なことを学ばせていただく場面がよくあります。やりがいのある仕事であり、とても楽しく過ごしておりますが、医療知識以外でももっと感性を高めて人として中身を豊かにしたいと思っております。

私は製菓・製パンの仕事に携わった過去があり資格を取得しております。限られた知識の中で自宅にて作っておりましたが限界がありました。殻を破るため外の世界を

理学療法士 細田 明寛



体験することにしました。ミシュラン店舗のパティシエのお菓子教室や、有名なバーテンダーのフレッシュフルーツカクテルを経験しました。自分の生活でも新しいことを取り入れることが楽しい日々で、患者さんとの運動の間の気分転換のトークも楽しいです。

皆様の趣味でも、新しいことを体験することや第一線で活躍している人を見たり話したりすると、自分の世界を少し広げるきっかけになるかもしれないので、皆様も機会があればいかがでしょうか。

外来診療のご案内

	診察室	月		火		水		木		金	
		午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
呼吸器内科	32	加藤 達雄		鮎 稔隆	安田 成雄 (13-15時)	加藤 達雄		加藤 達雄		安田 成雄	
	33	浅野 幸市		松野 祥彦		大西 涼子		鮎 稔隆		松野 祥彦	松野 祥彦 (禁煙外来)
	31	大西 涼子				五明 岳展		浅野 幸市			
呼吸器外科	31			小松 輝也	小松 輝也 〔初診〕						小松 輝也
	33				五明田 匡						
循環器内科	42	宮田 周作				宮田 周作		谷垣 徹 (第1・3・5週)		宮田 周作	
ペースメーカー	42			宮田 周作 〔予約紹介初診含む〕				宮田 周作 (第2・4週) 〔予約紹介〕			
消化器内科	43							加藤 則廣			
脳神経外科	43	荒木 有三				松久 卓				担当医	
心臓血管外科	42			富田 伸司 (第2・4週)							
内分泌内科	54							窪田 沙希			
緩和ケア内科	203		加藤 則廣	大西 貴香	菊池 志乃				松野 祥彦	大西 貴香	加藤 則廣
産婦人科	200	大西 貴香		大西 貴香			大西 貴香	大西 貴香		大西 貴香	
小児科	52				山本 崇裕						
	53	宮崎久美子	山本 崇裕		宮崎久美子			山本 崇裕	二宮 央		
	54				下川 祐子						
	55						山本 崇裕			下川 祐子	原 晃啓
	57	水野 朋紀	二宮 央	二宮 央	原 晃啓	原 晃啓	水野 朋紀	宮崎久美子			水野 朋紀
神経小児科	52		船戸 道徳	船戸 道徳		船戸 道徳	船戸 道徳			船戸 道徳 (第1・3週)	船戸 道徳 (第2・4週)
	53					西村 悟子	西村 悟子		渡邊 宏雄 (第3週)		
	54	安藤恵美子	安藤恵美子			安藤恵美子	安藤恵美子		加藤善一郎	西村 悟子	(西村悟子)
	57										
小児外科	55	加藤 禎洋	加藤 禎洋			安田 邦彦	鴻村 寿 (第3週)	水津 博			
形成外科	55							小池 学 (第2・4週)			
リハビリ診療	57	水野 朋紀	二宮 央	二宮 央	原 晃啓	原 晃啓	水野 朋紀	宮崎久美子	担当医	担当医	水野 朋紀
脳神経外科(小児)	53										近藤 五郎 (第4週)

※予約制を行っています。再診予約電話058-232-2800(平日8時30分~17時15分)

交通案内



自動車

- 高山方面より
東海北陸自動車道
関インターより30分(R156号線経由)
- 名古屋方面より
東海北陸自動車道
一宮木曾川インターより30分(R22号線経由)

電車・バス

- J R 東海道本線岐阜駅下車又は名鉄名古屋本線岐阜駅下車
岐阜バス
- 長良医療センター行(所要時間26分) 終点下車
J R 岐阜駅前 バスターミナル ⑬番のりば
名鉄岐阜駅前 バスターミナル ④番のりば
- 松籐団地行(所要時間23分) 長良医療センター口下車 ▶ 徒歩5分
J R 岐阜駅前 バスターミナル ⑬番のりば
名鉄岐阜駅前 バスターミナル ④番のりば



NAGARA 国立病院機構
Medical Center
http://www.hosp.go.jp/~ngr/

長良医療センター

〒502-8558 岐阜市長良1300-7
代表TEL:058-232-7755 FAX:058-295-0077
予約センターTEL:058-232-2800

●令和6年4月1日発行 ●印刷/山興印刷株式会社